

浜名湖地域における減災・地域振興に関する現地実証実験

国土交通省 中部地方整備局 道路部 地域道路課
国土交通省 中部地方整備局 浜松河川国道事務所

1. はじめに

静岡県西部に位置する浜名湖地域は、自然・歴史・文化が融合し、観光施設が多数存在、年間1,600万人が訪れる県を代表する観光地域である。

一方で、東名高速道路の年間交通量は約1億6千万台で、うち浜名湖サービスエリア（以下「SA」という）の利用台数は、年間260万台にのぼる。

今回は、「浜名湖地域における交通結節点を活用した減災・地域振興協議会（会長：三浦裕二 日本大学名誉教授）」が主体となって行った、浜名湖SAを活用した「浜名湖地域における減災・地域振興に関する現地実証実験」について紹介する。



図-1 浜名湖と東名高速浜名湖SA

2. 現状と課題

(1) 浜名湖地域における観光客数の減少

浜名湖周辺は、「館山寺温泉」をはじめ、「館山寺総合公園」や「浜名湖フラワーガーデン」、「新居関

所跡」や「弁天島」など、多くの観光資源に恵まれており、中京圏を中心に広く県外からも観光客が訪れるなど、県を代表する観光地域のひとつである。

しかし、昭和 55 年のピーク時には年間 79 万人あった「館山寺温泉」への宿泊客も平成 25 年には 42 万人に半減するなど、近年は観光客の減少も見られ、今後さらなる魅力的な地域とするために、観光客の満足度向上に資する取り組みが求められている。



図-2 館山寺温泉



図-3 弁天島

(2) 浜名湖 SA におけるリフレッシュ効果

浜名湖 SA は、いわゆる「上下集約型」と呼ばれ、上下線の休憩施設を下り線側に集約し、浜名湖という観光資源を最大限に活かした形式で、SA 内には遊歩道や芝生広場が整備され、浜名湖の眺望を楽しむことができるなど、非常にすばらしいロケーションとなっている。

しかし、湖面にアクセスできないため、高速道路利用者のリフレッシュ効果を高める目的として、湖上を楽しんだりする機能は無く、浜名湖の魅力を十分に伝えきれていない状況である。

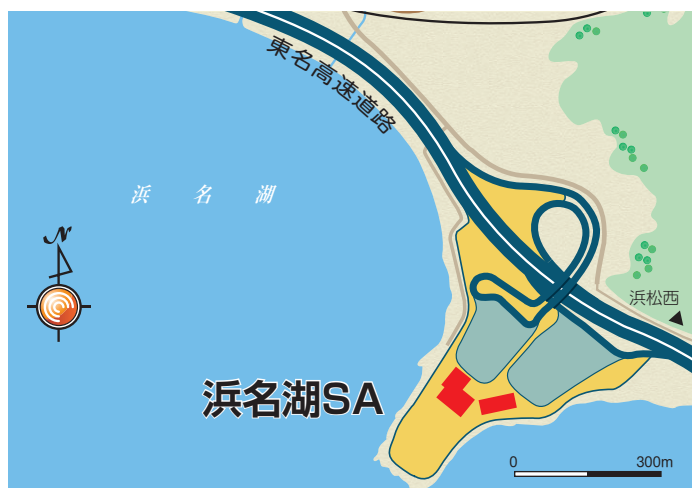


図-4 浜名湖 SA



図-5 浜名湖 SA 芝生広場

(3) 南海トラフ巨大地震発生に対する懸念

南海トラフ巨大地震が発生した場合、死者数は全国で 32 万人と言われ、そのなかでも静岡県は最多の 10 万 9 千人と想定されている。

浜名湖地域は、「南海トラフ地震津波避難対策特別強化地域」や「東海地震に係る地震防災対策強化地域」に指定されるなど、南海トラフ巨大地震が発生した場合、津波等で浜名湖周辺道路や太平洋沿岸部の交通機能が影響を受け、観光客等の帰宅困難者が多数発生することが懸念されている。

3. 道路に関する新たな取り組みの現地実証実験

(1) 実験概要

国土交通省道路局では、道路に関する先進的または斬新な施策について、効果や影響を確認するため、試行・評価する現地実証実験を平成 11 年度から実施している。平成 25 年度は、全国 23 地域から応募がありこれらの案件から 9 地域を選定、そのうちの 1 つが「浜名湖地域における減災・地域振興に関する現地実証実験」である。

現地実証実験にあたっては、地元観光協会や地元漁協が中心となり、国・県・市・高速道路会社並びに学識経験者による「浜名湖地域における交通結節点を活用した減災・地域振興協議会」を設立し検討を重ねた。



図-6 協議会の様子

① 地域振興（浜名湖 SA を拠点とした舟運およびレンタサイクル事業による地域振興の可能性）

これまでは、東名高速道路を利用し、浜名湖地域を通過していただだけの年間 260 万台の浜名湖 SA 利用者に、湖面にアクセスしリフレッシュしてもらい、浜名湖の魅力を存分に味わってもらうための舟運事業について実証実験を行った。また、併せて、浜名湖周辺の魅力を陸上からも体感できるよう、レンタサイクル事業についての実証実験を行った。

舟運事業については、浜名湖周辺に点在する観光資源を湖上輸送により直線的に結び、また、湖上を遊覧することで、浜名湖の魅力をより一層 PR できることから、地域振興にも有効であると考えた。

レンタサイクルについては、誰にでも簡単に乗れる手軽さや、景色を楽しみながら自分のペースで観光出来ることから、舟運事業同様に地域振興に有効であると考えた。

② 減災機能強化（湖上輸送ルートによるリダンダンシー確保の可能性）

南海トラフ巨大地震が発生した際に、陸上輸送を補完する湖上輸送ルートによるリダンダンシーの確保の可能性について実証実験を行った。

防災拠点としての浜名湖 SA とその立地特性を活かし、輸送ルートとして、陸上に加え、新たに湖上ルートを追加することで、浜名湖周辺道路が被害を受けた際の避難、救急・救援、緊急物資輸送などに効果を発揮すると考えた。

【実験期間と概要】

- ① 地域振興（舟運およびレンタサイクル事業）
平成 25 年 10 月 19 日～12 月 1 日の土日祝日
- ② 減災機能強化
平成 25 年 11 月 20 日および 27 日

（舟運事業）

- 浜名湖 SA に仮設の棧橋を設置し、定員 12 名の小型船舶 2 艘を用意した
- 浜名湖 SA と 館山寺温泉 を結ぶ航路と 浜名湖 SA を起点に湖面を周遊する航路を運航
- 浜名湖 SA と 館山寺温泉 を結ぶ航路は、朝 9 時頃と 昼 14 時頃の 2 便で施設間を往復した
- 湖面を周遊する航路は、10 時～14 時の間で約 15 分間隔で運航（運航時間約 20 分）
- 料金は、浜名湖 SA と 館山寺 を結ぶ航路が 500 円 / 人、周遊航路を 1,000 円 / 人で設定
（いずれも 4 歳以上小学生までは半額）



図ー7 舟運及びレンタサイクルルート

（レンタサイクル事業）

- 日本風景街道にも登録されている「浜名湖サイクリングロード」を活用したレンタサイクルを、10 時～14 時の間で実施
- 料金は、大人 500 円 / 日、子供 300 円 / 日で設定

（減災機能強化）

- 滞留者・傷病者輸送実験と接岸可能性実験を、それぞれ 11 月 20 日（水）と 27 日（水）に実施

【検証項目】

- ① 舟運を用いた観光客等の人員輸送実験による、航路の安全性、舟運事業の実現性
- ② レンタサイクル事業の実現性
- ③ 浜名湖 SA の管理（駐車容量等）への影響と付加価値の向上
- ④ 減災への貢献の可能性

(2) 実験結果

実験期間を通じて、①舟運事業の実現性、②レンタサイクル事業の実現性、③浜名湖 SA の管理（駐車容量等）への影響と付加価値の向上、④減災への貢献の可能性 の 4 つの視点から検証を行った。

【検証結果①】「舟運事業の実現性」

- 実験期間 15 日間のうち、荒天により終日または半日運休となった 5 日間を除く 10 日間の利用者数は 100 人～170 人/日
- 運航中は混乱なく無事故・無災害
- 採算ラインである 100 人/日を上回り採算性を確保
- アンケート調査で「本格運用後に利用したいか」の意向調査に対して「利用したい」と答えた割合は 95% と高い
- 大手旅行代理店のヒアリングから、「ツアーの中に組み込みたい」、「組み込む可能性がある」などの回答
- アンケートやヒアリングから需要が高いことを確認



図-8 社会実験の様子（舟運事業）

→航路の安全性、舟運事業の実現性を確認

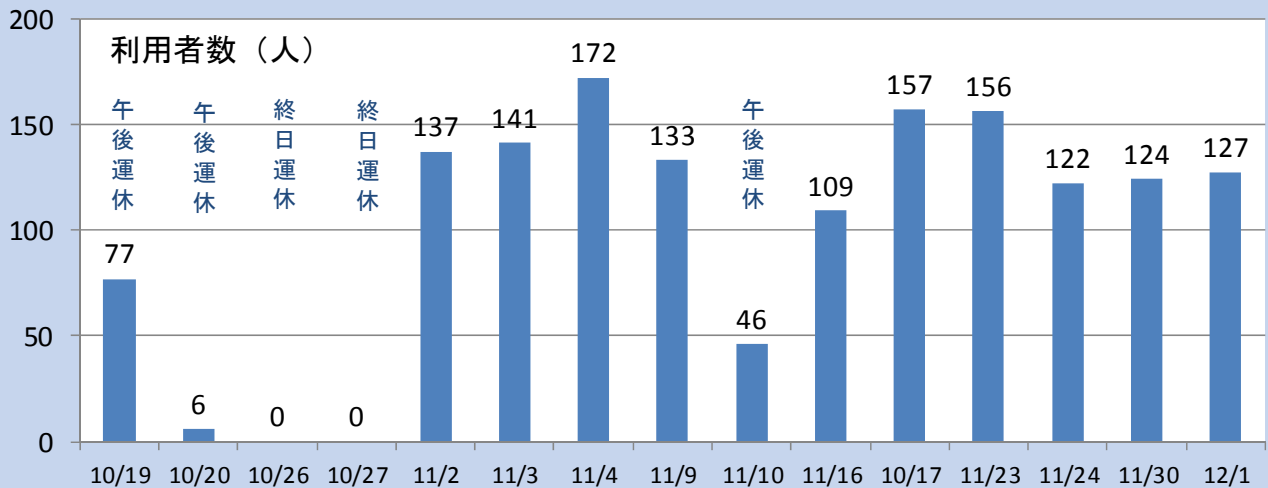


図-9 利用者数

○ 検証結果②「レンタサイクル事業の実現性」

- 利用者は 5 人/日程度、多くても 10 人/日程度にとどまり、採算ラインである 46 人/日を大きく下回った
- レンタサイクル場までの案内がわかりにくかったことや報道等でも舟運が注目されるなど、事前広報が不十分であったことが原因の 1 つと考えられる
- 大手旅行代理店のヒアリングから、「ツアーの中に組み込みたい」、「組み込む可能性がある」などの回答



図-10 社会実験の様子（レンタサイクル事業）

→利用者が少なく、引き続き実現性を確認

○ 検証結果③「浜名湖 SA の管理（駐車容量等）への影響と付加価値の向上」

- 舟運・レンタサイクル事業では浜名湖 SA の駐車場を利用したが、実験期間中に SA 駐車場の飽和度が1を超過することは無く、浜名湖 SA 利用者や東名高速道路の利用者に対する支障は特段なかった
- 一方で、利用者の感想を尋ねたところ、9割以上が「リフレッシュできた」と回答
- また、舟運事業やレンタサイクル事業が、「SA の新たな魅力になる」と感じている割合についても、全体の9割に上った

→浜名湖 SA 駐車場への影響は無く SA の付加価値向上に資する

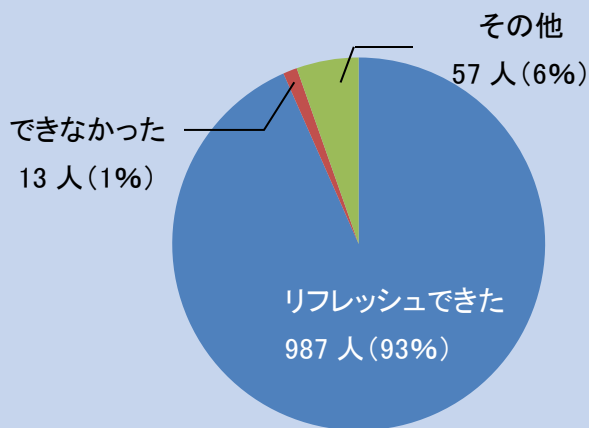


図-11 「リフレッシュできましたか」

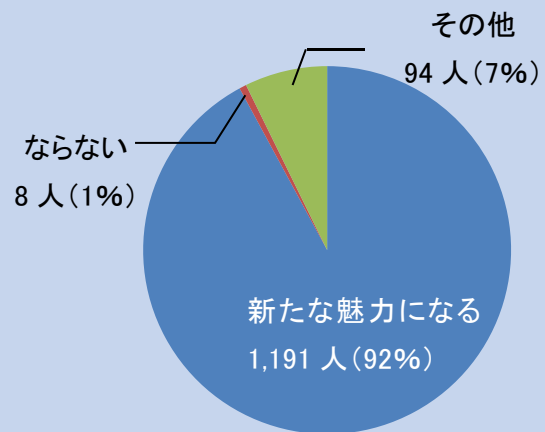


図-12 「SA の新たな魅力になりますか」

○ 検証結果④「減災への貢献の可能性」

- 滞り者・傷病者輸送実験により輸送能力を確認（22名／1艘・1h）
- 浜名湖内6箇所の棧橋への接岸が可能であることを確認

→舟運の活用による減災の可能性は高い



図-13 社会実験の様子（輸送実験）



図-14 社会実験の様子（接岸可能性実験）

4. おわりに

社会実験において実現性が確認された舟運事業については、「浜名湖花博 2014」に合わせて、平成 26 年 3 月 21 日より本格運用を開始した。今年は、花博開催期間（3/21～6/15）を含む、11 月まで運航予定である。

本格運用にあたっては、協議会のご尽力もあり、また地元メディアでも多数取り上げていただいたことで、社会実験期間と同様に日平均 100 人以上（3/21～5/31 における平均）のご利用があり、5 月のゴールデンウィーク期間中（4/26～5/6 の平日・荒天日を除く 8 日間）には、5 月 4 日に最大 345 人を記録するなど、1,300 人のお客さまが湖上から浜名湖地域を楽しんだ。本格運用開始から約 3 ヶ月、リピーターも出始めた。「波風が気持ち良かった」、「浜名湖の景色が見られて良かった」など、リフレッシュ効果も出ている。また、ペットと同乗された方にも好評のようだ。

一方でレンタサイクル事業については、利用者が少なく、引き続き検証が必要と考えられる。

今回の社会実験では、浜名湖 SA が交通結節点の機能を発揮し、これまで通過していただけた高速道路利用者に浜名湖の魅力を感じていただき、浜名湖 SA の付加価値向上に資すると共に、地域振興に貢献することが確認された。

また、湖上輸送ルートによるリダンダンシー確保の可能性についても、陸上と湖上という異なる輸送ルートはリダンダンシー性が非常に高く、減災への貢献度は大きいと考える。

国土交通省中部地方整備局では、「道路に関する新たな取り組みの現地実証実験（社会実験）」を通じて、引き続き中部地域における地域振興や課題解決など、地域に貢献していきたい。